

【全体概要】

富山県は主穀作に特化した農業構造となっており、米価が低迷する中で主穀作経営体の体質強化に向け、野菜生産を組み込んだ経営の複合化を推進しているところである。しかしながら、北陸地域特有の冬期間の積雪などの気象条件から、作業時期や収益を得られる期間が限られ、野菜複数品目の組み合わせや新たな作型の開発による輪作体系の確立と収益の更なる向上が課題となっている。このため、機械化一貫体系や主穀作経営の労働時間の平準化を踏まえ、複数品目の組み合わせや同一品目において新たな作型の開発を進め、主穀作経営の収益向上を推進する。

新品種・新技術等の概要

●たまねぎ

(1)「初夏どりたまねぎ」の機械化に適した
加工用品種の検討



写真 たまねぎ品種比較

(2)加工用たまねぎの省力的乾燥、調製方法の検討

●キャベツ

(1)「秋播き春どりキャベツ」品種の検討



写真 キャベツ品種比較

主な取組内容

【実証ほの設置】

- ・初夏どり加工用たまねぎ及び秋播き春どりキャベツの品種比較試験実証ほの設置

【検討会の開催】

- ・実証ほ設置検討会、実証結果検討及び実需者との意見交換会の開催

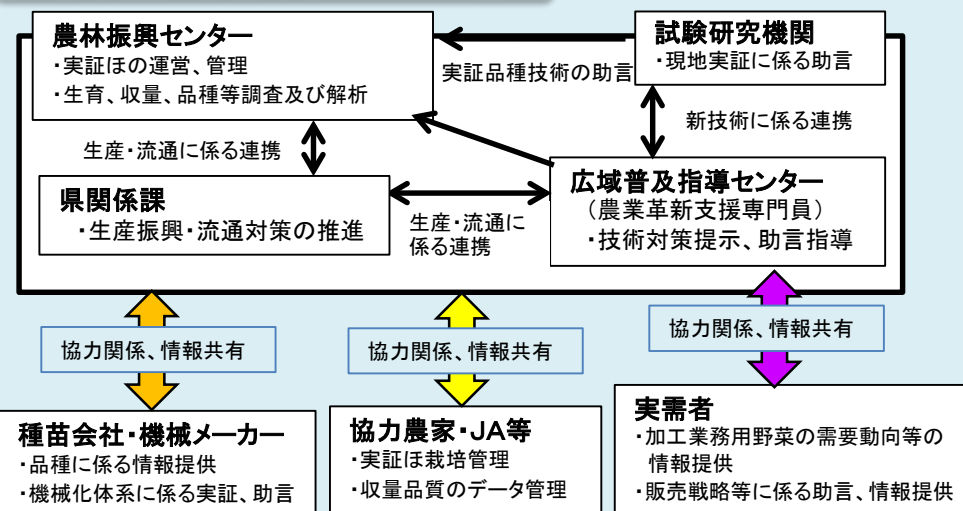
【生産性向上・経営改善効果分析】

- ・「初夏どりたまねぎ」、「秋播き春どりキャベツ」導入への経営改善効果分析

【先進地視察】

- ・安定生産技術にかかる県外先進地調査を実施

実施体制図



課題と今後の対応

●たまねぎ

- ・加工用のたまねぎについては、収量性や機械化適性の面から有望な品種を選定中であるが、さらに異なる気象条件の下で「初夏どりたまねぎ」の機械化に適した加工用品種の検討を行う。
- ・また、加工用の省力的乾燥、調製方法については、安価で効率的に乾燥できる方法の検討を行う。

●キャベツ

- ・1年目は6品種を用いて比較し、現在収量や品質について検討を行っている。
- ・今後は1年目の収穫期間の前後の時期に収穫できる「秋播き春どりキャベツ」の新たな品種の検討を行い、収穫幅のさらなる拡大を目指す。